

## 2023年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
32403	簿記基礎演習 Bookkeeping basic exercise	松葉哲也	✓	専門	1	選択	1.2前期
<b>科目の概要</b>							
簿記とは、会社などの事業者が日々行う取引を記録・集計し、最終的に貸借対照表と損益計算書を作成することで事業者の財政状態と経営成績を明らかにするための基本的技能である。ビジネスの多様化が進む現代における社会人基礎力として重要性が高まっている数値管理能力を修得するための土台として、簿記の基礎を習得する。★税理士資格を取得して16年、事務所を開業して9年、会計及び税務の実務を行ってきた経験を活かし、この科目では実際に活用できる簿記の知識を取り入れるとともに、簿記検定対策にもつなげていく。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 簿記の目的を理解する。 ② 簿記独自の分類方法である仕訳の意味を理解し、仕訳の方法を知る。 ③ 仕訳を集計して帳簿に記録する手順を知る。 ④ 試算表の意味を理解し、作成方法を知る。 ⑤ 財務諸表の作成方法を学び、作成した財務諸表から経営成績等を考察する。				① 簿記の目的を説明することができる。 ② 実際の基本的な取引例を仕訳することができる。 ③ 仕訳を勘定に転記し、総勘定元帳を作成することができる。 ④ 試算表・精算表の記入を経て貸借対照表と損益計算書を作成することができる。 ⑤ 日商簿記検定3級における基礎的な水準の問題に回答することができる。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	ア. 簿記を使うために必要な知識について、教科書を使って自己学修することができる。 イ. 自ら練習する態度を身に付けることができる。					
	働きかけ力						
	実行力	ア. 仕訳を行うために必要な思考を、反復練習により身に付けることができる。 イ. 目標を設定し、最後までやり遂げることができる。					
考え抜く力	課題発見力	簿記という統一ルールに基づいて情報を客観的に整理することで、テキストに載っていない取引も簿記で表現できることに気付くなど、問題を自ら見極めることができる。					
	計画力						
	創造力	簿記という手段により、一つの事柄を多面的に捉えることを学び、固定概念にとらわれない情報理解のきっかけを手に入れることができる。					
チームで働く力	発信力	課題に取り組むうえで、自分の考えを相手に説明できる機会が期待でき、聞き手に伝わりやすいように工夫して発表することができる。					
	傾聴力	課題に取り組むうえで、他人の意見を確認して、その内容を自分の学びに活かすことができる。それを踏まえた自分の意見も述べるすることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻、無断欠席など、学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：「サクッとわかる日商3級商業簿記テキスト【第3版】」 桑原知之著 ネットスクール出版 1,320円 参考文献：なし							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
他科目との関連：簿記応用演習 資格との関連：簿記検定							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
講義後に、教科書にある練習問題にチャレンジし、学習済みの内容を次回の講義までに整理しておくといよい。				小テストで間違えた箇所を復習すること。小テストのうち少なくとも1回及び最終テストは必ず受けること。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		40	①	✓	計3回の小テストの得点のうち高い方から2回分の点数を平均して判定する。 ①前回までの授業内容を理解できているか確認する。 ②出題する問題はテキストの基本問題と同程度とする。
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤		
		レポート		50	①	✓	授業内で実施する最終テスト（レポート）で判定する。 出題範囲は、授業で学修した内容とし、簿記一巡の流れが理解できているかを問う問題とする。 次の到達レベルをもって合格の基準とする。 決算整理仕訳を精算表に記入して貸借対照表と損益計算書が作成できる・・・S 勘定の残高を基に試算表が作成できる・・・A 仕訳を勘定に転記できる・・・B 基本的な仕訳ができる・・・C Cのレベルに達していない・・・F
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性） テキスト・資料以外の問題に自主的に取り組むことができる。 （課題発見能力） 応用問題に対して全体的に的確なポイントの整理ができる。 （実行力） 予習復習を確実にし、新たな問題に取り組むことができる。 （創造力） 実社会での必要性をイメージできる。 （発信力） 課題のポイントを相互に説明できる。 （傾聴力） 授業内容を十分に把握でき、わからない点を整理できる。 （規律性） 遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S：決算時にのみ行う決算整理仕訳の内容を理解し、決算整理仕訳を精算表に記入できる。精算表を完成させることにより当期純利益を算出し、損益計算書と貸借対照表を作成できる。 A：総勘定元帳に転記された数字を集計して、合計試算表と残高試算表という2種類の試算表を作成することができる。これら2種類の試算表の相違点を理解している。	B：仕訳の合計額や残高を勘定科目ごとに把握するための方法として総勘定元帳に転記することを理解し、実際に転記ができる。 C：取引を2つの側面に分けて記録する仕訳の基本的な概念を理解したうえで、収益と費用・商品売買など、基本的な仕訳することができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	簿記は何のためにあるのか、その存在意義を学ぶ。簿記の最終目的は貸借対照表と損益計算書という2つの主要な財務諸表を作ることであることと、それらの財務諸表が示す意味及び両者の関係を理解する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	簿記の目的である貸借対照表と損益計算書は何のためにあるのか、両者はどう関係しているか説明できる。資産・負債・資本・収益・費用の要素があり、各々のホームポジションは借方(左側)・貸方(右側)のいずれであるかを答えることができる。	(予習) 簿記が存在する目的を予習する。 (復習) 貸借対照表と損益計算書の借方・貸方に記載されている項目の種類と、その項目ごとのホームポジションは借方・貸方のどちらかを確認し、暗記する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
2	簿記独特の取引記録方法である仕訳について学ぶ。すべての取引を2つの側面に分けて、借方と貸方に分けて記録するという仕訳の基本的な概念とルールを理解する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	取引を2つの側面で捉え、勘定科目と金額を用いて記録するという仕訳の基本が理解できる。	(予習) 簿記の基本的なルールである仕訳について予習する。 (復習) 資産・負債・資本・収益・費用には各々どのような勘定科目があるのかと、1つの取引を2つの側面で捉えるという簿記独特の考え方を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	前回から引き続き仕訳の方法を学ぶ。特に、資産・負債・資本・収益・費用の各項目が減少した場合はホームポジションの反対側に記入することを理解し、実際に仕訳してみる。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	基本的な取引を仕訳の形で表現できる。減少した場合はホームポジションの反対側に記入することを理解している。	(予習) 各項目の金額が減少したときはどのように仕訳するのかを予習する。 (復習) 仕訳は資産・負債・資本・収益・費用の各項目の増加または減少の組み合わせで構成されることを意識しながら基本的な取引が仕訳できるよう復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	仕訳ができるようになったら、その仕訳を勘定に転記し、残高や合計を把握するのが次のステップである。仕訳と並ぶ簿記の基本的技術である勘定転記の方法を学修する。	小テスト(前回授業までの内容から出題する) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	仕訳を勘定に転記する方法と、転記された数字は何を意味するのかを理解している。	(予習) 仕訳を勘定科目ごとに集計する方法として勘定転記を予習する。 (復習) 仕訳で貸方・借方それぞれに出現した勘定科目の数字を勘定の貸借同側に転記するという基本を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
5	現金・預金・収益・費用の仕訳を学ぶ。具体的には小切手の意味と使い方、小切手を受け取った場合と振出した場合の仕訳、期末に未使用の消耗品がある場合の仕訳を学修する。	小テストを返却し要点を振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	小切手を受け取った場合と振出した場合にそれぞれどう仕訳するかを理解している。	(予習) 今回から仕訳する取引の範囲が広がることに備え、小切手を受け取った又は振出した場合の仕訳を予習する。 (復習) 小切手を受け取った場合と振出した場合及び期末に未使用の消耗品がある場合の仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	商品売買を行った場合の仕訳を学ぶ。仕入れたときは原価、売った時は売価を使うことを理解する。さらに、売れた商品をいくらで仕入れたのか(売上原価)を計算するためにどう仕訳すればよいかを知る。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	商品を仕入れたとき、売却したとき、期末に売上原価を算定するときという3つの場面に応じた仕訳のパターンを理解している。	(予習) 商品の売買を行った場合の仕訳を予習する。 (復習) 仕入・売却・売上原価算定の3つの局面において行うべき仕訳は決まっているので、それぞれの仕訳の意味を理解したうえで暗記する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	商品売買の代金決済に関連して、売掛金など債権・債務が発生する。これらの債権・債務が増減した場合の仕訳について学ぶ。また、伝統的な代金決済手段である約束手形の特性を理解し、その仕訳を学ぶ。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	約束手形の意味と使用する場面が理解でき、約束手形を含む債権・債務が増加又は減少する取引の仕訳ができる。	(予習) 小切手に続く支払手段である手形の仕訳について予習する。 (復習) 約束手形は振出す場合と受け取る場合で異なる勘定科目を使うことを中心に、債権・債務の仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	固定資産を購入・保有する場合の仕訳について学修する。固定資産の価値下落を長期にわたり費用化する減価償却という手続きについて知り、その仕訳方法を学ぶ。	小テスト(前回授業までの内容から出題する) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	与えられた資料から減価償却費の計算ができる。仕訳することができる。	(予習) 固定資産の価値が経年・使用により下落することをどう仕訳するか予習する。 (復習) 長期にわたって使用する固定資産の費用化として独特な概念である減価償却の意味を理解し、その仕訳方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	仮払金・立替金・預り金など一時的な金銭の授受についての仕訳を学修する。また、第4回の授業で行った仕訳の勘定転記から一歩進めて、勘定科目ごとの合計や残高を集めて試算表を作ることを学ぶ。	小テストを返却し要点を振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	一時的な金銭の授受について仕訳できる。仕訳を勘定に転記し、その合計や残高を基に2種類の試算表を作ることができる。	(予習) 出張費をあらかじめ前払いするなど、一時的な取引を行った場合の仕訳について予習する。 (復習) 合計試算表と残高試算表の違いを明確にしつつ、試算表の作成方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	仕訳を転記して記録する帳簿は主要簿と補助簿に大別される。今回はこの主要簿と主な補助簿の種類や目的について学ぶ。補助簿については、簿記検定でも出題の多い売掛金元帳・買掛金元帳について理解を深める。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	仕訳帳と総勘定元帳が主要簿であることを理解し、総勘定元帳への記入ができる。	(予習) 仕訳を転記して記録する帳簿にはどのような種類があるかを予習する。 (復習) 仕訳を仕訳帳に、さらに総勘定元帳へと記入し、目的別に補助簿を作るという簿記の流れを理解しながら帳簿組織を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	補助簿の中でも検定試験によく出題される商品有高帳について、その目的と記帳方法について学修する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	商品有高帳は商品の払出単価の決定方法によって主に先入先出法と移動平均法という2種類の記帳方法があることを理解し、それぞれの方法で記帳できる。	(予習) 主な補助簿である商品有高帳の記載方法を予習する。 (復習) 商品有高帳は売価ではなく原価を管理するものであることを理解しながら2種類の記帳方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	1年間の経営成績を把握するために1年ごとに決算を行うが、その決算時のみ行う仕訳である決算整理仕訳のパターンを学び、実際に仕訳を行う。	小テスト(前回授業までの内容から出題する) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	決算整理仕訳について、決算時にのみ行う理由を理解し、実際に仕訳することができる。	(予習) 期末だけに行う仕訳である決算整理仕訳にはどのようなものがあるかを予習する。 (復習) 決算整理仕訳には決まったパターンがあることを理解し、それぞれの仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
13	決算整理の続き(費用と収益の期末調整)について、4つのパターンとその意味を理解し、その仕訳を学ぶ。	小テストを返却し要点を振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	決算整理仕訳のうち、費用と収益の期末調整について4つのパターンを区別し、仕訳することができる。	(予習) 決算整理のうち未学修の「費用と収益の期末調整」について予習する。 (復習) 費用と収益に関する期末調整の4つのパターンを整理しつつ、仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	残高試算表に決算整理仕訳を加えて貸借対照表と損益計算書を作るまでを一つの表にしたものを精算表という。今回はこの精算表の記入方法と、損益計算書で利益を計算する方法を学ぶ。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	精算表の記入方法を理解し、当期純利益(又は損失)を計算することができる。	(予習) 精算表の概念と記入方法を予習する。 (復習) 精算表は残高試算表から財務諸表を作る過程を一枚にまとめたものであることを理解しつつ、その記入方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	最終テスト(前回授業までの内容から出題する)	最終テスト 最終テストのポイントを振り返り解説することでフィードバック	仕訳を帳簿へ転記し、決算整理を経て貸借対照表と損益計算書を作るという簿記一巡の流れを理解していること。具体的には、基本的な取引を仕訳することができるに到達レベルCに達しているものとする。	(予習) 最終テストに向けてこれまでの小テストの出題内容を見直す。 (復習) 最終テストのポイント解説内容を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力